

連続立体交差事業の費用便益分析に係る

「移動時間短縮便益」、「走行経費減少便益」、「交通事故減少便益」以外の便益項目（平成30年度事業評価）

便益項目			
項目		概要	推計手法及び原単位
(1)	歩行者快適性の向上	鉄道横断時や広場利用等の歩行者の快適性の向上を評価	$B = N \times WTP$ <p>N : 歩行者数 (人/日) ※歩行者は、連続立体交差事業区間内の踏切通行者数の合計 もしくは駅前広場利用者数とし、一般的には駅乗降客数×2.0 WTP : 移動の快適性工場に対する支払意思額 20 (円/人)</p>
(2)	高架下空間の創出	高架下による高架下空間の創出を評価	$B = S \times L \times R \times U$ <p>※連続立体交差事業の鉄道負担率の考え方に基づいて式を設定 S : 高架下貸付可能面積 (m²) × 15% (地方公共団体の利用分) L : 高架下平均地価 (円/m²) R : 地代率係数0.06 (土地を賃貸した場合の料率) U : 用途補正係数 (負担率より逆算/商業系用途比率に応じた基本負担率)</p>
(3)	CO ₂ 等の削減	渋滞緩和等によるCO ₂ 、NO _x 等の発生の解消を評価	$【CO_2】 B = a \times b$ <p>a : 事業前後の総排出量の差 (t/年) b : 貨幣換算原単位10,600 (円/t-c)</p> $【NO_x】 B = c \times d$ <p>c : 事業前後の総排出量の差 (t/年) d : 貨幣換算原単位 人口集中地区292 (万円/t) 、その他市街地 (58万円/t)</p>